

地域医療の格差に関する研究

大森 正博(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科)

平成 22 年度は、「医療費の分析」テーマについて、2 つの研究課題に取り組んだ。

第一に地域医療の格差に関する研究である。医療費の決定要因として、地域における医療需給システムのあり方は、大きな影響を及ぼす。地域医療の需給システムにおいて、公立病院の果たす役割は大きく、公立病院の理論的・実証的分析は不可欠である。

第二に医療制度改革のシュミレーション分析である。社会経済の変化を背景として今日、日本の医療制度は改革を余儀なくされているが、改革がどのような効果を持つのか、検証する必要がある。

1. 地域医療の格差に関する研究

本研究では、近年の公立病院改革の現状に鑑み、地域医療における公立病院の役割を再検討し、近年の公立病院に対する政策措置について検討した。理論的には、サービス提供が自然独占の産業構造になっている場合、外部性が存在する場合、公共財を供給する場合に、公立病院の存在意義があると考えられる。その一方で、これらのサービスを供給する上で、公立病院が供給しなければならない必然性があるわけではなく、その組織形態、規制のあり方についてさらなる検討が必要であると考えられる。近年の公立病院改革は、「公立病院改革ガイドライン」の策定およびその下での「公立病院改革プラン」の作成により本格化しているが、まだ改革の途上にある。

本研究では、改革にあたり留意すべき点についても指摘した。第一に、目的を達成するための公立病院の組織形態について検討する必要があるが、その中で、公立病院が目的に向かって業務を行い達成しているかどうかをチェックする機能も重視すべきである。第二に、費用償還のあり方について、経営の効率性、社会的厚生を重視した価格設定、費用償還方式を考えるべきである。第三に、公立病院の果たす役割、目的を地域医療の中で明示的に位置づけ、それに向けた分業を政策的に実現するべきである。

地方財政、国の財政の悪化を背景に、今日、医療における公、国、地方公共団体の役割について再検討する時期が来ているように思われる。公立病院改革の議論、およびそれに

伴う施策の遂行の過程で、住民をはじめ、関係者が医療のことを真剣に考え、人々に幸福をもたらす医療制度が構築されることを願ってやまない。

2. 医療制度改革のシュミレーション分析

医療制度改革のもたらす効果を、国際比較の視点も入れて行った。

3. 国内外における研究成果の口頭発表・講演

- ① 「公立病院を取り巻く諸問題について」 財政経済基本問題研究会（於 日本工業倶楽部）2010年8月12日（木）
- ② 新春座談会 「少子・超高齢化社会における持続可能な社会保障制度改革」
於 日本租税研究協会 日本工業倶楽部 2010年11月11日（木）
with 駒村康平氏、和泉徹平氏、中野英夫氏、林正義氏、山重慎二氏
- ③ 「オランダの介護保障制度」 国立国会図書館説明聴取会 2010年12月6日

4. 論文・報告書等

- ① 「公立病院を取り巻く諸問題」 『租税研究』 第733号 pp.53-66 2010年11月
- ② 「日本の医療制度を考える」 『JAMIC JOURNAL』 Vol.30 No.7 P.14-15 2010年7月
- ③ 「日本の医療ここがおかしい」 Nikkei Medical P.59 2010年11月（コメント）
- ④ 「少子・高齢化社会における持続・可能な社会保障制度改革」 『租税研究』 第736号 pp.8-43 2011年2月（共著）